

前期学校評価結果のお知らせ

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。さて、一学期末に実施しましたアンケートをもとに結果をまとめました。また、学校関係者評価委員会の皆様によるご教示、保護者の皆様から寄せられたご意見と学校からの回答とあわせてご報告します。今回の結果および貴重なご意見を踏まえ、教職員一丸となり、よりよい学校づくりにまい進したいと考えております。

平成30年度蝶屋小学校学校評価

肯定的評価 A(当てはまる)+B(どちらかといえば当てはまる)
評価A:90%以上 B:80%~90%未満 C:70%~80%未満 D:70%未満

評価項目				肯定的評価	評価	総合評価	分析	担当	改善策	
確かな学力の育成	1	学習規律 (学習用具)	児童	ベル始まり、返事、姿勢はできている (手もまっすぐピンとあげている)	93%	A	B	児童と教職員の評価はとて高い。落ち着いて授業に取り組んでいる実態がみられる。しかし、高学年児童の一部にはできていないと感じているので個別に指導する必要がある。保護者アンケートはクラスによって差がある。子どもの発達段階に合わせて指導していきたい。	学習研究部	・2学期初めに学習規律の徹底週間を設定し、継続的な共通実践を行う。 ・授業の終わりに、返事や姿勢などについてふり返りを行い、自己評価させる。
			保護者	教科書・ノートや学習用具を大切に使用している	83%	B				
			教職員	学習準備(学習用具)、ベル始まり、返事、姿勢、まっすぐ拳手を指導している	95%	A				
	2	学習習慣 (忘れ物ゼロ)	児童	宿題忘れ・忘れ物はゼロですか?	91%	A	A	児童、保護者、教職員すべての肯定的評価が90%を超えており、忘れ物が減るように自分で持ち物の用意をしたり、家庭で宿題をしたりする習慣が身につけてきている。忘れ物や宿題忘れを減らす児童ができてきているので個別に声かけをしていく必要がある。	学習研究部	・学習用具や規律の徹底を図るために、2学期はじめに徹底週間を設け、継続的な指導を図る。 ・宿題忘れ0を徹底するために、毎週金曜日に宿題忘れが続いた子を指導する場を設け、定例化する。
			保護者	自分で学習や持ち物の用意をしている	93%	A				
			教職員	忘れ物ゼロ、家庭学習(目標時間以上)、調べ学習に挑戦できるように指導している	100%	A				
	3	書く力	児童	いつでもよく考えていねいに書いている	95%	A	B	児童と教職員の評価は高いが、保護者は書く力については今ひとつの評価であった。授業中は書く習慣が身につけてきたが、家庭学習ではなかなか集中できない実態がある。家庭学習でも集中して書くことができるような課題の工夫や家庭との連携が課題である。	学習研究部	・本時の課題について、自分の考えを書く時間、授業の終わりのふり返りを書く時間を確保する。
			保護者	家庭学習でも、集中して書いている	79%	C				
			教職員	児童が、書くことを通して深い学びができるよう、授業を工夫している	95%	A				
	4	集団学習	児童	考えたことを発表している	88%	B	B	自分の考えを発表したり、伝えたりすることが苦手な児童がやや多い。教職員は意識して指導しているが、徹底されていない実態がみられる。基本的な話す、聞くスキルを育てていく必要がある。	学習研究部	・「声」をだす活動を、あいさつや朝の会、帰りの会などでも取り入れる。 ・聞いたことが言えるか、聞き返す。 ・授業の終わりに、自分の学習をふり返りを行い、発言したか反応しているか自己評価する。
			保護者	人の話をしっかり聞き、反応している	78%	C				
			教職員	児童によく聞き考えて反応する力がつくよう、指導している	100%	A				
豊かな心の育成	5	生活習慣	児童	服装をととのえている(名札、シャツイン、ズック)	96%	A	A	教職員の粘り強い指導の成果が出ている。しかし、保護者アンケートの中に「人を選んであいさつをしている」という内容もあった。A評価という結果に安心することなく、引き続き全体指導、個別の指導を継続していく必要がある。	生徒指導部	・朝のあいさつ指導の継続とあいさつの苦手な児童への直接の声かけを重視していく。 ・あいさつ以外の服装や時間を守るなどについても、できていない児童への個別指導を徹底する。
			保護者	家庭や地域であいさつができる	91%	A				
			教職員	あいさつや服装など、生活習慣が身につくよう根気よく指導している	100%	A				
	6	集団生活	児童	廊下や階段は右がわを歩いている	94%	A	B	校内では、教職員の指導の効果があり、廊下や階段の安全な歩行がほぼ身につけている。時間に関して、学校は日課があり、チャイムを自覚に児童は行動しているものの、家庭では子どもが自由に決められる範囲が大きい。ルールも含めて家庭によって差があるのが現状である。	生徒指導部	・9月の月目標に「家でも学校でも時間を守って行動する」の項目を含め、スケジュールや予定、計画を意識した生活づくりの指導をする。また、できていない児童には個別指導をしている。
			保護者	家庭のルールの中で時間を守り行動している	76%	C				
			教職員	時間を守り、廊下や階段の正しい歩き方を指導している	100%	A				
健やかな体の育成	7	安全健康	児童	寝る前にならず歯みがきをしている けがゼロになるように気をつけている	95%	A	B	安全についての意識が高まってきたことで、4月当初から比べると、けがで保健室を利用する児童の数が減ってきていることから、安全第一の指導意識による教職員の共通実践も定着しつつある。	生徒指導部	・引き続き、早寝早起きの大切さを養護教諭と連携し、各学級で指導していく。 ・保健だより等でも保護者に向けて早寝早起きの大切さを伝えていく。
			保護者	早寝早起き、寝る前の歯みがきをしている	83%	B				
			教職員	早寝・早起き・寝る前の歯みがきを指導している	90%	A				
	8	特別活動	児童	全員で楽しく遊んでいる(たてわり遊び)	96%	A	A	たてわり遊びや、全校遊びを通して、高学年を中心に、他学年のために行動しようとする意識が芽生えてきている。また、そうした高学年の行動を教職員が全体に評価することで、高学年が自分の良さを自覚し、掃除でも他学年と主体的に関わっている。	特別活動部	・たてわりの場だけではなく、学習の場での交流も増やす。その際、共通の課題に挑戦したり、高学年が他学年に勉強を教える機会などを作ることで、お互いを認め合ったり、感謝し合えるような場を設ける。
			教職員	休み時間や縦割り班での遊び方を把握し、適切に指導している	100%	A				
	9	体育活動	児童	ルールを守って水泳新記録にチャレンジしていますか?	95%	A	A	水泳では、各学年が明確な目標を設定しているため、多くの児童が水泳学習に一生懸命取り組んでいる。校内では、休み時間も元気に遊ぶ子どもたちの姿が多く見られる。しかし、保護者の認識では、まだ1割近くの家庭で否定的な意見が見られる。体育の学習規律は、6年生が集合の仕方のモデルを見たことで、素早く、静かに集まる意識が学校全体に浸透した。	特別活動部	・引き続き、体育の学習、体育的な活動の際は、目的や目標を持たせ、主体的に活動できる場を設定する。 ・学校で身体を動かして遊んでいる様子や、体育での様子を学年便りなどを通して積極的に発信していく。 ・OJTなどを中心に教職員で指導内容や方法等を共有し、望ましい学習規律を共通実践していく。
			保護者	身体を動かし元気に遊んでいる	90%	A				
			教職員	体育の時間に駆け足で集合し、体育座りで話を聞く指導を続けている	93%	A				
	10	学校生活	児童	友達をいやな気持ちにさせていない (7月:いじわる・けんかをしない96%)	91%	A	A	担任をはじめとし、管理職や生徒指導主事、養護教諭など様々な教職員が学年・学級関係なく、一人ひとりの児童と対話を重視した生徒指導を心掛けている。また、いじめ問題をはじめとした生徒指導事案への迅速で効果的な組織的対応が実現できていることも、非常に高い肯定的評価につながっていると言える。	生徒指導部	・一人ひとりの実態に応じたきめ細やかな声かけ及び授業づくりを積み重ねる。 ・管理職への報告・連絡・相談を徹底し、対話をベースとした迅速かつ効果的な組織的に対応する。
保護者			元気に登校している	98%	A					
教職員			気になる児童一人ひとりと対話している	95%	A					
11	自転車	保護者	自転車に乗る時、ヘルメットを着用している	82%	B		ヘルメットの着用率は高学年が低い傾向にある。	生徒指導部	・中学校の先生から直接指導の場を設ける。(6年・運動会後2回以上を予定) ・放課後レインボーの指導と合わせて、保護者への啓発を行う。	

◇学校関係者評価委員会より (8月23日実施) *主なものです。

- ・たてわりの場をもつことはよいことである。下学年には上学年へのあこがれを、上学年には自己有用感を育成することになる。学びとつながりの中で、大切なことを伝授していくとよい。
- ・ヘルメットの保持率、着用率が気になる。自転車での重大事故などが考えられるため、ヘルメットの着用と交通マナーを徹底すべきである。啓発活動を進め、ヘルメット着用100%をめざしてほしい。
- ・ルールを徹底させるには、大人もルールを徹底したり、ミスした時には誠実に謝ったりすることが大切だ。
- ・昨年度の卒業式では6年生の態度が素晴らしかった。また、蝶屋小学校の子どもたちはよくあいさつをする。できている子をほめて育てていきたいものである。親もほめることを意識するとよい。
- ・学校では『ほめ活・認活』をどんどん増やし、自己肯定感が高まってきている。子どもたちは、日ごろの何気ないことをよく見て気づいている。ほめ言葉のシャワーで先生方も子どもたちもやる気がアップしてくる。

